

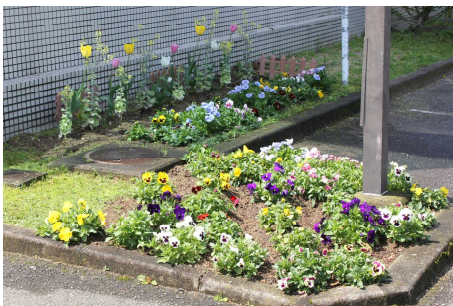
【朝倉地区人権啓発情報センターだより】2021(令和3)年5月14日(金)

みんなの“人権”が尊重される
『まちづくり』への《懸け橋》

No. 36

発行：
人権啓発指導員
【大楠 茂美】

明けない夜はない!! …コロナ禍にあっても、季節は巡り、
山々の新緑や色鮮やかな草花が^{あざ}春^{めぐ}を運んでくるように、
どんなとき、であろうと変わらない、かけがえのない生命が
確かに尊重される『豊かな人権感覚』を、今こそ大切に…!!



朝倉地区生涯学習センターの
北玄関横花壇の様子(4月末)

福岡県では、三回目の緊急事態宣言
(5/12~31)が出されました。変異株等
の出現の中、**エッセンシャルワーカー***や、
その家族への差別的言動、偏見(必要な
サービス提供拒否、行事への参加拒否)
等の問題が全国で起こっています。また、
アジア系の人々に対する、理不尽な**ヘイト
クライム***の報道も、後を絶ちません…

「法務省・全国人権擁護委員連合
会」のリーフレットに、次のような提起
が、取り上げられていました…。

今、みんなが不安の真ただ中…!!
そんな時だからこそ、自分の言動(→
感染拡大への、どうしようもない不安や
怖さの矛先…)が、感染者やそのご家族、
医療や福祉等での感染防止に、
日々、奮闘されてある方々などに向け
られ、差別や偏見につながっていない
か、「他人ごと」ではなく「自分のこと」
として考えることが大切です…

「悪意のない言動が、人権侵害に
つながることもあります」とも…!!

コロナをおそれて、
過剰な反応になっていませんか？
あなたの言葉や行動が人を傷つけてしまうことがあります。
この冊子をきっかけに「自分のこと」として考えてみましょう。

不安を差別に
つなげちゃいけない。

気づこう、
変えよう、
そのひとこと。
STOP! コロナ差別

尾身 茂

法務省・全国人権擁護委員連合会

【Stop! コロナ差別】のリーフレット

コロナ禍の今、差別や偏見につながる事例を挙げて、正しい知識・情報に基づいて行動、することの大切さを、改めて考えさせられました。

- i) 医療従事者やエッセンシャルワーカーに、感謝やエール（応援）を…!!
- ii) 正しい知識のもと、感染者やその家族等の立場に立った思いやりを…!!
- iii) きめつけや思い込みではなく、正しい情報を確認、冷静に行動を…!!

----- (用語説明) -----

エッセンシャルワーカー*→医師や看護師、薬剤師などの「医療従事者」や「運輸・物流に携わる仕事」、介護や福祉の分野で生活相談員として働く「ソーシャルワーカー」「介護士」「保育士」、小売店で働く従業員、金融、公務員…など、人々の生活にとって必要不可欠な仕事を担っている人たちのこと。

ヘイトクライム*→人種、民族、宗教、性的指向等に係る、特定の属性を持つ個人や集団に対する偏見や憎悪による嫌がらせ、脅迫、暴行などの犯罪行為を指す。



2019（令和元）年度スタートした、朝倉地区：保育所（園）、幼稚園での『ニコニコひろがる！ひまわりのはな運動』は、3年目を迎え、5/10（月）には、今年度取組んで頂く7か所に、種やプランター・「祈りの土（朝倉復興支援として災害土を活用し、JA系島で商品化された堆肥）」

等をお配りしたところです。この取組みは、法務局や各地区人権擁護委員、人権センターが連携し、毎年、朝倉地区4小学校で実施の『人権の花運動』を就学前にも広げ、幼少期から「かけがえのない^{いのち}生命を大切に^いする、豊かな人権感覚（感性）を育ててもらいたい」という願いからです。

★今年度→【筑前町：篠隈保育所、中津屋幼稚園】【朝倉市：甘木双葉幼稚園、福田保育所、真愛保育園、生い立つ保育園、馬田保育園】

～昨年度の「声」から～

- 「体育発表会の日、風に揺れ、みんなを応援してくれているようでした。」
- 「私たちより大きくなった。ひまわりがニコニコしている。うれしそう!!」
- 「一緒に水やりやお祈りをしました。咲いた時、とびきりの笑顔が…!!」
- 「わあ、きれい。かわいい。ひまわりの成長を一緒に喜び合いました。」
- 「見て見て、蕾になっとる!」「どれが最初に咲くかなあと、笑顔が…!!」
- 「暑い日に太陽に向かってぐんぐん伸びるひまわりは私たちに元気と勇気を…!!（九州北部豪雨時、ひまわりの茎が泥まみれに…。倒れた茎を、くねらせながらも咲いた、ひまわりを思い出しました。）」



【朝倉地区人権啓発情報センターだより】 2021(令和3)年7月5日(月)

みんなの“人権”が尊重される
『まちづくり』への **《懸け橋》**

No. 37

発行：
人権啓発指導員
【大楠 茂美】

『認知症の人材バンク設立』福岡市は全国の自治体で初めて、認知症の人を事前登録し、企業に紹介する「オレンジ人材バンク」が設立されたというニュースが…!! (2021.6.8(火)の西日本新聞朝刊)



福岡市では、『福岡100』(→人生100年時代へのチャレンジ)の取組みの一つとして、「認知症の人が、住み慣れた地域で安心して自分らしく暮らせるまち」をめざし、日本初の人材バンクが設立されました…

認知症の人と企業が双方向で商品開発(当事者の声、を届け、新たな商品開発に活かす)等に関わることで、自分らしく生きがいを持って生活できる、大きな一歩につながっていくことでしょう!!

現在、約70社・団体が「福岡オレンジパートナーズ」に、参画をされている

そうです。企業においての認知症の人たちへの理解を深めるとともに、生き生きと「活躍」できる環境づくりを進める、新たな取組みが始まります。



「大変緊張したが、夢のようなこと！
私は生まれ変わりました。」

※ 実際に働き始めた人のコメントより

「お仕事が楽しみで仕方がありません。
生活に張りが出ています。」…

「尊厳や自由をもつ、一人の人間として…」

(クリスティーン・ブライデンさん…オーストラリア在住)

オーストラリア在住のクリスティーン・ブライデンさんは、科学者官僚として活躍中の1995年(46才の時)に認知症の診断を受けます…。

その後、将来への不安や周囲の偏見に苦しみながらも、自身の体験や心情を発信されるなど、本人の意志を大切にする認知症ケア「変革」の先駆けとなりました。(…2004年国際会議において、自らの想いや心情を発言)

上記の言葉は、ブライデンさんが講演の中で話されていた一節です。「私は誰になっていくの?」という不安の中で、最期のそのときまで、「尊厳や自由をもっている一人の人間として、前向きに生きていきたい!!」という想いが、ひしひしと伝わってくるようでした…

こうした考えに学び、「一般社団法人日本認知症ワーキンググループ」では、『認知症とともに生きる希望宣言』(2018.11.1)を表明しました。

「一足先に認知症になった私たちから すべての人たちへ」

『認知症とともに生きる希望宣言』

- 1 自分自身がとらわれている常識の殻を破り、前を向いて生きていきます。
- 2 自分の力を活かして、大切にしたい暮らしを続け、社会の一員として、楽しみながらチャレンジしていきます。
- 3 自分の思いや希望を伝えながら、味方になってくれる人たちを、身近なまちで見つけ、一緒に歩いていきます。
- 4 私たち本人同士が、出会い、つながり、生きる力をわき立たせ、元気に暮らしていきます。
- 5 認知症とともに生きている体験や工夫を活かし、暮らしやすいわがまちを一緒につくっていきます。

「私たち抜きに私たちのことを決めないで！」との考えに立って、認知症の当事者本人が、それぞれの体験や思い等を出し合って、作成されたそうです。

この希望宣言の始めに掲げられた…「一足先に認知症になった私たちから すべての人たちへ」というメッセージ、どう受け止められますか…？



…年毎に忘れっぽく、足元も心配になってきた両親は90才を過ぎ…。でも、好きな野菜作りになると、種苗の種類や数、間隔を考え、ネギ収穫の終わり頃は所々にカボチャの苗を植え、頭の中に野菜の育つ^{そえぎ}様子が浮かぶのか、優しく添木を立て、肥料袋で^{よくりゆう}囲って野菜を守り…。

少年飛行兵志願～シベリア抑留～復員と怒涛の時代。家族を支え、子や孫にバトンを託し、つながり合っていく^{いのち}「かけがえのない生命…!!」

年を重ね心身等の衰えは、誰にも訪れます。高齢者問題もまた、決して人ごとではなく、…

○自分自身の問題であること【自らの課題】

○自他の人権を尊重すること【人権の共存】

という二つの視点の大切さについて、両親の後ろ姿から、改めて考えさせられています。…



【朝倉地区人権啓発情報センターだより】 2021(令和3)年9月6日(月)

みんなの“人権”が尊重される
『まちづくり』への
か 橋
《懸け橋》

No. 38

発行：
人権啓発指導員
【大楠 茂美】

「8月6日、福岡県筑紫野市立筑山中の生徒たちが、市文化会館で平和劇を演じた!」との記事が…。(9/5西日本新聞朝刊)



「一人一人を大切にできる社会を…!!」

生徒たち自身が取材し、劇を作り上げ、二年ぶりに無観客で実施されたそうです。

今回、「差別」の視点で「平和」を紡ぎ出そうと、暮らしと戦争、10年前の東日本大震災、来年100年目を迎える全国水平社(水平社宣言)、「性の多様性」などで、劇のタイトルは【寄せ鍋】でした。

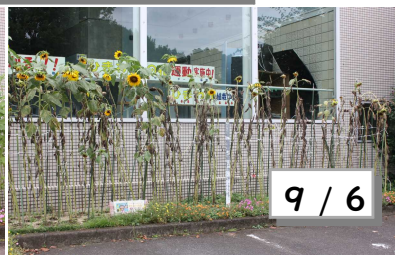


東日本大震災で被災し、避難先の中学校で、「放射線がうつる」という差別を受けた生徒が自校に転校してくるところから、物語は始まります…

自らの生活を振り返り、自身のこととして捉え、素直な感性で発信していく取組の積み重ねが、「人権を大切にできる社会」の第一歩につながっていくと信じます。



人権の花「ひまわり」が元気に咲き、新たな種「いのち」が…!



朝倉地区生涯学習センター北側の花壇やプランターで、今年も元気に育ってくれたヒマワリ。大雨や強い風にもふんばって、来年に「いのち」をつないでくれました。 ～ 「いのち」を届けてくれて、ありがとう!! ～



プランターで育ったひまわりの花が終わって苗を抜いてみると土の中に、表に出てきた背たけ以上に丈夫な根っこや細かなひげ根が、びっしりと顔を出して…!!
思わず、相田みつをさんの「詩」が、思い出され、写真を撮りました…



いつも土の中で植物を支え続ける根っこ

花を支える枝
枝を支える幹
幹を支える根
根は みえねえんだなあ

「人が 人として 幸せに生きる権利」→『人権』においても、どこか、このヒマワリを支えてきた「根っこ」のように…

誰でもみんな、一人一人の生命(いのち)は、
誰かに、とって…代わることが 決してできない、
同んなじ…かけがえのない生命(いのち)なんだ!!

という「根っこ」が、表には現われないけれど、しっかり支えてくれているのではないのでしょうか。…職員みんなて協力し合って、草取りや水やりなど、ヒマワリ栽培をしていく中で、そんなことを考えさせられました。…

お知らせ

「福岡市、夜間中学設置へ」という報道が…!! (西日本新聞朝刊:8/27) …不登校で義務教育を終えた人や、外国人らの学びの場をつくるため福岡市では、市立夜間中学を設置する方針を固め、来年4月開校をめざすとのこと。事前調査では約200人の希望があったそうです。…年間30日以上欠席している不登校の中学生は増加傾向にあり、19年度は約12万8千人とされています(文科省調)。

誰もが幸せに生きることができ
「人権の共存」の社会をめざして…!!



【朝倉地区人権啓発情報センターだより】 2021(令和3)年9月30日(火)

みんなの“人権”が尊重される

『まちづくり』への《懸け橋》

No. 39

発行：
人権啓発指導員
【大楠 茂美】

歌集「川の瀬の音」上下【2016(平成28)年4月8日発行：
著者/発行人 上野政行、編集/ヒューマンライツ福岡】より…

この歌集の発行は、ヒューマンライツ福岡の古長美知子さんが、今は亡き祖父(林力先生のお父様)の生前を知る元ハンセン病患者のお一人である、上野政行さんを訪ねたことから始まります…

祖父の話や折々にふれる短歌から、想像を絶する絶対隔離の歴史と現実、過酷な人生の道程を知るうちに、この「肉声(短歌)」を、世に出して欲しいと提案したところ、幾分の躊躇の後、頷いてくださったそうです…



この句にある「川の瀬の音」が、歌集の表題となりました。万感の想いが…。
※故里↓もともと住んでいて、離れてしまっている土地という意味合いがあるそうです。

夜半に 覚(さ)め
わが故里を 偲(しの)ぶれば
川の瀬の音 きこゆる思い

長く深い差別の闇にありながらも灯し続ける 人間の生の営みの崇高さ、命の輝きが溢れている上野さんの短歌を、歌集に含めて広く伝えたい!! という古長さんの想いが、上巻『序にかえて』の中に綴られていました。

十八歳だった上野さんは、今年5月で九十八歳を迎えられました…

癩(らい)病む身を

忍び帰りて 昏睡(こんすい)の
母に一夜を 添ひて明かせり

わが父の 逝(い)きし

齡(よわい)に 近くなりぬ
癩病む吾に 苦しみし父よ

物乏しき 代(よ)に

染め替へし 背広一着
父が 送り給ひき

面会に

姉が持ちこし 写真
身籠(ごも)りし 母のみ姿

田草取る

さなかに吾は 強(し)ひられて
此の療園に 収容されき

故里(ふるさと)の

激(げき)つ川瀬に 鮎とりし
吾が少年の日よ 健やかなりき

幻に いまも きこゆる

故里の 紙漉(す)き村の
楮(こうぞ) たたく音

偏見差別の

苦しみのなき 世を願ひ
満席の学生に 吾は語りぬ

退所なき

予防法の廃止 告げたくも
吾が父母は もはや世に在さず

夜の更(ふ)けて 妻の呼ぶ声に

出(い)でみれば まどかな(丸い、
おだやかな) 月が 庭を照らせり

苦しみて 息急ぐ

君の背を摩(さす)る
年月ながき 恩を思ひつつ

強(し)ひられて

受けし断種を 老いて思う
吾をかぎりの 生命いとしき

※ 掲載に当たり、古長さんより上野さんに連絡を取って頂き、ご本人の承諾を得ております。

十八才の時、「田草取る 最中に吾は 強(し)ひられて…」星塚敬愛園(現鹿児島県鹿屋市)に強制収容された上野政行さん。人として生きる尊厳をかけての心の叫びが、一句一句には刻み込まれていました。…

- 「物乏しき代(よ)に 染め替へし背広一着 父が送り給ひき」
- 「癩病む身を 忍び帰りて 昏睡(こんすい)の母に一夜を添ひて 明かせり」

…ご両親への感謝の想い、どんな心持ちで染め替えされた父親の背広を羽織られたことでしょうか。…昏睡(こんすい)の母親に寄り添って明かした一夜は、きっとまんじりともされなかったことでしょう。…人が人として生きる、ともに生き合う、その根っこにあるものを考えさせられます。

皆様からのご感想やご意見などをお聴かせ頂ければ幸いです。…

【朝倉地区人権啓発情報センターだより】2021(令和3)年10月29日(金)

みんなの“人権”が尊重される

『まちづくり』への
《懸け橋》

No. 40

発行：
人権啓発指導員
【大楠 茂美】

2021(令和3)年度：巡回パネル展についてのお知らせです。

(戦争の記憶を 風化させないために…)

戦後76年『戦争の記憶Ⅱ』
～「杉原千畝の決断」6000人の命のビザ～



1945(昭和20)年8月15日の終戦から今年で76年。今では、戦後生まれの世代が日本の総人口の85%を占めるようになり、年を重ねる毎に『語り部』の減少や、『戦争の記憶』の風化が危惧されています。

世界では今、新型コロナ禍に加え、様々な人権に係る問題(人種、性の多様性、ネットでの誹謗中傷等)や、不安定化している国際秩序(紛争、対立等)の中にあって、『戦争の記憶』を振り返り、人権尊重の土台である「平和の尊さ」について考え、他人事ではなく自分の問題として語り合うことが、求められているのではないのでしょうか。

今年、昨年に引き続き「戦争の記憶Ⅱ」として、1940(昭和15)年に六千人の命を救った外交官、杉原千畝の決断を企画しました。当時、ポーランドからリトアニアに必死で逃れたユダヤ人難民に、国の命令に逆らっても人道・博愛の精神を貫き、「命のビザ」を発給した杉原千畝。

未来を築く子どもたちに、『平和な社会』を引き継いでいくためにも、多くの人々にご覧いただき、語り合いの輪を広げられれば幸いです。

■ この企画展は、東峰村・筑前町・朝倉市を巡回して、開催を予定しております。下記期間中は、各施設とも無料でご覧いただけます。…

○ 東峰村：12月 1日～12月13日 保健福祉センター(いずみ館)

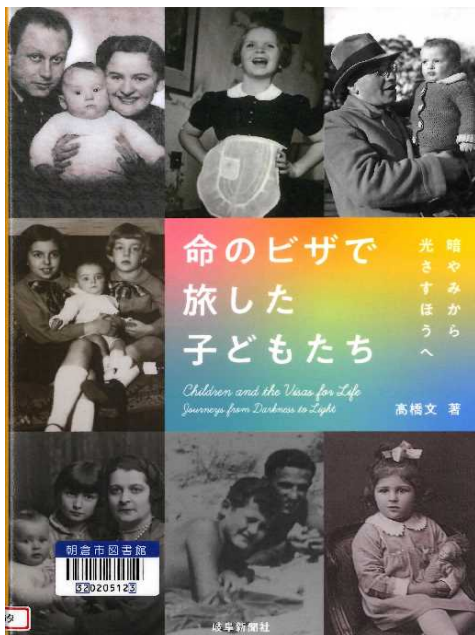
○ 筑前町：12月15日～12月27日 コスモスプラザ

○ 朝倉市：(令和4)1月5日～1月20日 朝倉地域生涯学習センター

◆ 朝倉地区人権・同和教育研究会 1/22(土)ピーポート甘木(12:30～16:00)

前述の『巡回(人権)パネル展』を前に、関係図書を紹介です。

命をかけて迫害から必死に逃れ、一縷の望み(→一筋の希望)を託した多くのユダヤ難民を前に、まさに、命のビザ、発給という人道・博愛の精神を貫き通した、外交官杉原千畝さんにかかる関係図書は、数多く出版されています。その中でも今日は、今年8/5に発行された最新本『命のビザで旅した子どもたち』(岐阜新聞社)の紹介です。



編著は大阪出身で現在、カナダ在住で、主に文化・歴史関係の執筆をされている高橋文さんです。～「はじめに」では、次のようなことが書かれていました。～

「スギハラは、命の恩人...と話す人たちがいます。スギハラが発給したビザで、広い(旧)ソ連を10日以上も汽車で横切り、日本海を渡って日本へ…。しばらくして、落ち着いて住むための場所に向け、子どもたちどころか、大人でも忘れられないほど長くてこわい思いをする旅…が続きました。これは、本当にあった話。何十年も前のことです。だからといって、あの時の子どもたちのことを忘れないでほしいのです。なぜなら、同じような危険な旅を繰り返してはいけない! ユダヤ人たちを助け、不安を和らげてくれた人たちの愛・勇気・親切について、これからも話してほしい。…そういう思いから、私はこの本を書き、あなたに読んで欲しいのです。」

カナダは、第二次世界大戦中に、ヨーロッパからユダヤ人が避難してきた国の一つです。この本に登場する7人の子どもたちと家族のうち5家族が、日本を通過してカナダにきました。…なぜ、ユダヤ人たちは命の危険があったのか、そうしたことも考えながら、もう誰も暗やみのような世界にもどらないように



…と締めくくられていました。～他にも、絵本で『エリカ奇跡のいのち』や『杉原千畝と命のビザ:自由への道』等も、ぜひ読んでいただければ!～